

コシダ *Dicranopteris linearis* (Burm.f.) Underw.

ウラボシ科 *Gleicheniaceae*

### 1.利用可能部位

葉柄 (B) : 籠編み素材

### 2. 組織形態

葉柄断面はほぼ円形で (C)、下表皮は8~15細胞層と厚く (E)、極めて硬い。中央に断面盃型で縁が内側に巻き込む1本の維管束があり、2~4細胞層の厚壁組織で覆われる。木部は原生木部が左右にあり、上方の巻き込み部および下方のそこ部分では仮道管は太くなる (D)。通気孔条は無い。

### 3. 利用例

・編みかご (葉柄をそのまま使って目の粗い編みかごにする)

高知県立歴史民俗資料館、国立歴史民俗博物館などで実物展示がある。

また、ネットでの販売もある。

### 4. 遺跡出土遺物 : 知られていない

#### 図説明

A:コシダの葉。 B:コシダの葉。長い通直な葉柄を利用する。 C:葉柄の横断面。厚い下表皮と1本の維管束がある。 D:維管束の拡大。「盃型」の左右部分に原生木部があり、その上方およびそこに向かって後生木部の仮道管が徐々に太くなりながら連なる。 E:表皮、下表皮の拡大。下表皮は良く発達し細胞壁が厚く硬い。



A



B

